

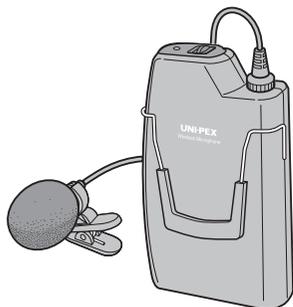
UNI-PEX

取扱説明書 (保証書付)

800MHz帯・ツーピースタイプ

ワイヤレスマイク

WM-8100A



このたびは、ワイヤレスマイクをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

安全上のご注意

必ずお守りください

- ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



航空機内では電源を切る

運航の安全に支障をきたす恐れがあります。



医用電気機器に近づけない

(手術室、集中治療室、CCU*等には持ち込まない)

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。*CCUとは、冠動脈疾患監視病室の略称です。





警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。



電池は分解・ショートしない

電池の破裂や液漏れにより火災、けが、やけどの原因になります。



乾電池は充電しない

電池の破裂や液漏れにより火災、けが、やけどの原因になります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池は極性(プラス+とマイナス-)を正しく入れる

間違えると、電池の破裂や液漏れにより火災、けがや周囲を汚損する原因となります。



上手な使いかた

■取扱い上のお願ひ

技術基準適合証明ラベルについて

- ・本機は、電波法で規定される技術基準適合証明品です。
- ・機器一台一台にその証明番号(証明ラベル)が貼ってあります。みだりに剥がしたり損傷の無いようご使用ください。

放置しないで

- ・アンプの上や夏の閉め切った車内のような温度の高いところや、湿度の高いところには放置しないでください。

電池は正しく使う

- ・使いかたを誤ると、電池の液漏れで機器が腐食したり、電池が破裂する恐れがあります。ショート、分解、加熱、火の中への投入、充電に対応していない電池の充電はやめてください。

取扱いはていねいに

- ・床に落としたり、物に当たったりしないでください。

違法改造しないで

- ・本機を分解したり、内部の部品に触ったりしないでください。改造することは法律で禁じられています。

マイク本体に水は禁物

- ・水に濡れた場合はすぐに電源スイッチを切り、乾いた布で拭いてください。

使用後は

- ・電源スイッチを切ってください。また、長時間(2週間以上)使用しないときは、電池を取り出してください。

■ 使用上のお願い

マイクと口との距離

- ・マイク部は、マイククリップでネクタイや襟などに止めてください。
止める位置はできるだけ口元に近い方が、より明瞭な音質が得られます。

ハウリングについて

- ・せまい室内でしかもスピーカーの近くで使用するとハウリングをおこすことがあります。その場合は、受信機のボリュームをしばらく、マイクの使用位置を移動してください。

強い電波を発する機器に近づけない

- ・携帯電話など強い電波を発する機器に近づけると、ノイズが発生します。
(携帯電話は同じ800MHz帯を使用しているため、混信します。)

グループ設定スイッチについて

- ・本機のヘッドセットマイクを使用される場合は、必ずグループ番号を「MIC 1」側で設定してください。誤って「MIC 2」側で設定した場合は、電源スイッチを「OFF」側に切り換えても電源を切ることができません。
グループ番号の設定時には充分ご注意ください。

雑音が入るときは

- ・ワイヤレスアンテナに近づけてご使用ください。ただしワイヤレスアンテナから2m (送信出力6mW時は3m) 以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信など、受信機が誤動作することがあります。
- ・受信機やワイヤレスアンテナはデジタル機器や高周波雑音のでる機器などから、できるだけ離して設置してください(5m以上)。

マイクどうしは、50 cm以上離して使用する

- ・2本以上を50cm以内で同時に使用すると、他の受信機へ混信することがあります。
- ・金属などが、使用しているマイクの前面ネットに接触すると、雑音が発生する場合があります。

使用電池について

- ・高性能乾電池(充電出来ないタイプ)で初期電圧値が1.65Vを超える物はお使い頂けません。
製品の内部に保護回路が組み込まれており、電源も入らない状態となりますので、ご注意ください。
- ・ご使用頂けます電池は、アルカリ乾電池またはニッケル・水素蓄電池です。

各部の名称と説明

電源表示灯(赤)

電源スイッチを入ると点灯します。
電源表示灯が遅い点滅または消灯する場合は、使用している電池が消耗しています。新品の乾電池、または充電済みのニッケル・水素蓄電池に交換してください。

電源表示灯が早く点滅する場合は、周波数設定が正しくできていないこと(6ページの周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。

必ず電源を切り、再度周波数設定をしてください。

電源スイッチ

マイクプラグ

本体のマイクジャックに差し込み、締付ねじを矢印の方向にまわし、しっかり締め付けてください。



マイクプラグ

締付ねじ

マイクジャック

マイク部

風防(付属)

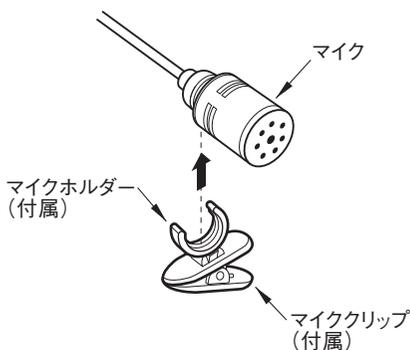
電池ケース

ふたをはずし、内部の極性表示に従って電池を入れてください。5ページの「乾電池の入れ方」をご参照ください。また、送信周波数を設定するためのグループ/チャンネル設定スイッチもこの中にあります。

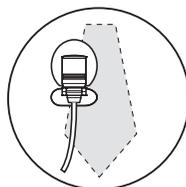
本体クリップ

マイククリップ

■マイクホルダーをマイクの溝に合わせて差し込む



ネクタイなどに取り付ける



乾電池の入れ方

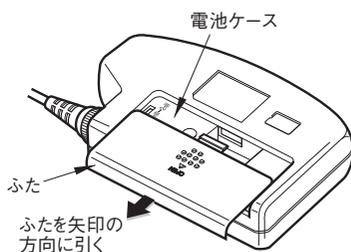
お願い
電池を交換または、入れるときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

ご注意

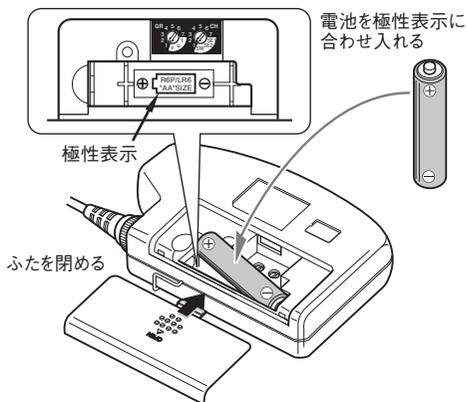
●使用電池について

- ・高性能乾電池(充電出来ないタイプ)で初期電圧値が1.65Vを超える物はお使い頂けません。製品の内部に保護回路が組み込まれており、電源も入らない状態となりますのでご注意ください。
- ・ご使用頂けます電池は、アルカリ乾電池またはニッケル・水素蓄電池です。

1. ふたをはずす



2. 電池を入れる



3. 電源スイッチを入れ電池の確認をする



周波数の設定について

- マイクと受信機(チューナーユニット)は、同じ周波数に設定してください。
- 同時に使用するマイクは、グループを全て同じにし、チャンネルを変えてください。[同グループ、異チャンネル](受信周波数表を参照)

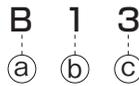
■グループについて

- 同じ場所で複数のマイクを同時に使用するときは、1つのグループに統一して使用します。
学校の教室のように複数の部屋で使用する場合は、部屋ごとにグループを割り振ります。
 - ・グループ 1~4 … 最大6波まで。
 - ・グループ 5 …… 5波まで。
 - ・グループ 6 …… 1波まで。
 - ・グループ 7 …… 7波まで。ただし、隣接した部屋で他のグループのマイクは使えません。
- 15波同時使用の組み合わせは、グループ1~6の中から選定された周波数で構成されています。
設定方法については、10ページの「多チャンネル運用について」をご参照ください。

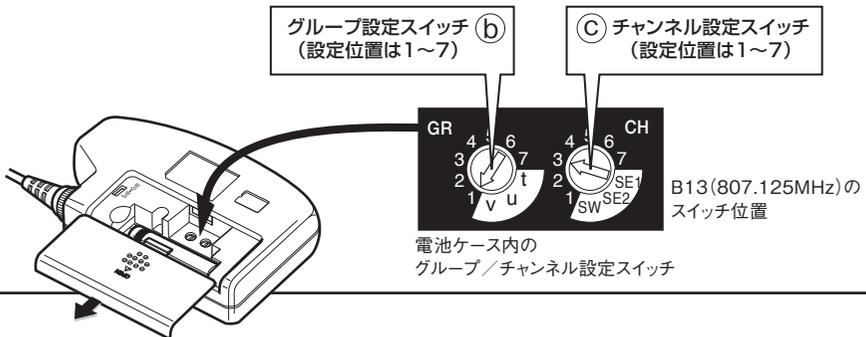
■チャンネル呼称について

例

- ・グループ番号……1
- ・チャンネル番号……3



- (a) ……800MHz帯を表わす
- (b) ……グループ(GR)番号を表わす
- (c) ……グループ内のチャンネル(CH)番号を表わす



●受信周波数表

受信周波数(0.125MHz間隔、30波)							
周波数(MHz)	グループ(下2桁目)・チャンネル(下1桁目)						
	1	2	3	4	5	6	7
806.125	B11						B71
806.250		B21					
806.375	B12						B72
806.500		B22					
806.625			B31				
806.750				B41			
806.875			B32				B73
807.000		B23					
807.125	B13						
807.250						B61	
807.375			B33				
807.500				B42			B74
807.625					B51		
807.750	B14						
807.875		B24					
808.000				B43			
808.125					B52		
808.250			B34				
808.375					B53		
808.500		B25					B75
808.625			B35				
808.750					B54		
808.875		B26					
809.000	B15						
809.125				B44			
809.250			B36				
809.375				B45			B76
809.500	B16						
809.625					B55		
809.750				B46			B77

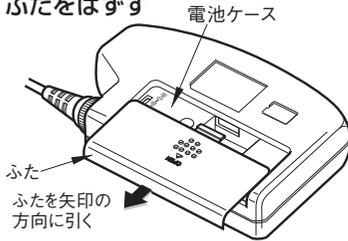
周波数の設定のしかた

■周波数の設定

お願い

周波数を設定するときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

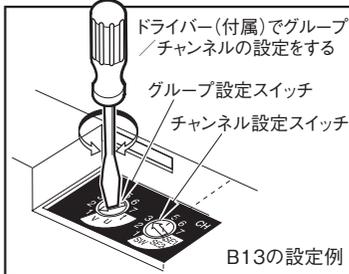
1. ふたをはずす



電池ケース内部にグループ／チャンネル設定スイッチがあります。

電源スイッチを必ず「切」にしてから、電池ケースのふたを開けてください。

2. グループ／チャンネルを設定する



グループ／チャンネル設定スイッチ

チャンネル表示ラベル(付属)を貼る

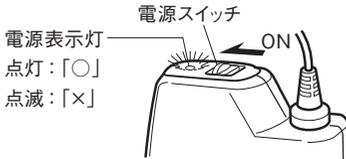


設定したグループ、チャンネルと同じ表示ラベルを貼る

3. 電源スイッチを入れ、設定を確認する

電源スイッチを入れ、電源表示灯が点灯すれば設定したグループ／チャンネルは正常です。

電源表示灯が早く点滅する場合は、周波数設定が正しくできていないこと(6ページの受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。必ず電源を切り再度周波数設定をしてください。



■設定のしかた

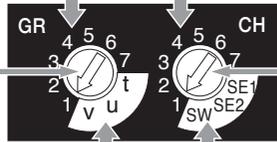
グループ設定番号「1～7」

グループ番号を1～7の範囲内で設定してください。「t/u/v」位置には設定しないでください。

チャンネル設定番号「1～7」

チャンネル番号を1～7の範囲内で設定してください。「SE1/SE2/SW」位置には設定しないでください。

グループ設定スイッチ



チャンネル設定スイッチ

電池ケース内のグループ／チャンネル設定スイッチ

受信機適合設定位置「t/u/v」

初期設定は「u」です。ユニパック社製受信機を使用の場合は設定の必要はありません。本機にユニパック社製以外の受信機を使用すると、音質が悪くなるなど適合しないことがあります。そのような場合は9ページの「本機が受信機に適合しないとき」をご覧ください。

使用マイク設定位置「SE1/SE2/SW」

初期設定は「SE2」です。本機のマイクを通常に使用する場合は設定の必要はありません。本機のマイクを口元に近づけて使用したり、別売のマイクロホンを使用する場合は9ページの「別売マイクを使用するとき」をご覧ください。

送信出力切換スイッチについて

■送信出力切換スイッチ

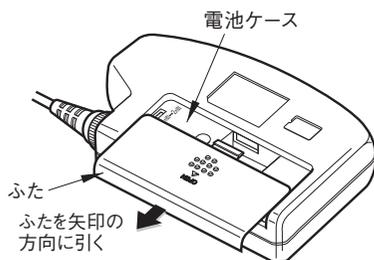
- 本機の送信出力は「2mW」と「6mW」に切り換えることができます。
出荷時は「2mW」に設定されています。用途、目的に応じてスイッチを切り換えてご使用ください。
 - ・通常使用時は「2mW」に設定してください。
 - ・通達距離が必要な場合は「6mW」に設定してください。
(11ページ定格欄通達距離の項参照)

送信出力の切り換え方

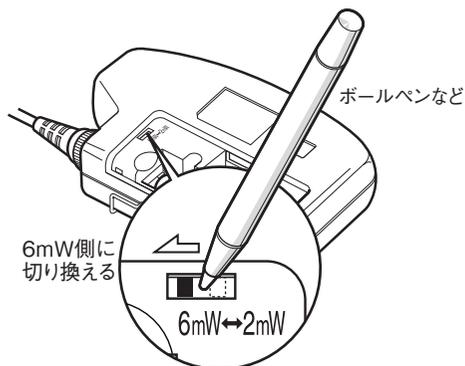
お願い

送信出力を切り換えるときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

1. ふたをはずす



2. 送信出力切換スイッチを切り換える



3. ふたを閉める



4. 電源スイッチを入れる

電源スイッチを「ON」にする



別売マイクを使用するとき

●本機に別売のマイクを使用する場合などは次の要領で設定をおこなってください。

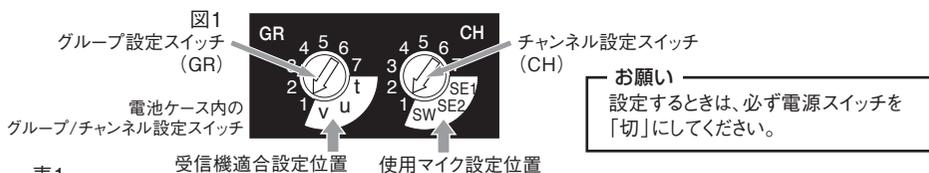


表1 受信機適合設定位置 使用マイク設定位置

設定位置 (GR)	設定位置 (CH)	マイク (例)	効果 (*1SE2と比較した場合)
u	SE1	ヘッドセットマイク HM-10E	感度「減少*1」マイク側のスイッチに非対応
u	SE2	本機のマイク	初期設定 マイク側のスイッチに非対応
u	SW	接話マイク ME-C11A	感度「減少*1」マイク側のスイッチに対応

- ①本機の電源スイッチを「切」にして、電池ケースのふたをはずす。(7ページの周波数の設定参照)
 - ②チャンネル設定スイッチをドライバー(付属)で使用するマイクの設定位置に合わせる。(図1、表1参照)
 - ・初期設定は「SE2」です。本機のマイクを通常に使用するときに適したマイク入力感度です。
 - ・「SE1」または「SW」に設定しますと、感度が減少します。比較的マイクを口元に近づけて使用する場合に適したマイク入力感度になります。
 - ・「SW」設定時に限り接話マイク側の「ON/OFF」スイッチに対応します。
 - ③グループ設定スイッチをドライバー(付属)で「u」位置に合わせる。
 - ④本機の電源スイッチを0.5秒以上「入」にした後、再び「切」にしますと設定完了です。
 - ⑤本機のチャンネル設定スイッチを元のチャンネル位置に設定し、電池ケースのふたを閉める。
- ◎注意・グループ・チャンネル設定スイッチは必ず元の位置(1~7)に戻すか、正しく設定してください。

本機が受信機に適合しないとき

●本機にユニベックス社製以外の受信機を使用すると、音質が悪くなるなど適合しないことがあります。そのような場合は次の要領で設定をおこないますと音質不良などを改善できる場合があります。



表2 ◎初期設定は「u」

設定位置 (GR)	設定位置 (CH)	適合受信機メーカー
t	SE1/SE2*	TOA、他
u	SE1/SE2/SW	ユニベックス、パナソニック、東芝、他
v	SE1/SE2*	ビクター、他

注)適合受信機メーカーは当社独自の調査によるものです。
*「SE1」は別売のHM-10E使用時、「SE2」は本機のマイク使用時です。詳しくは前記の「別売マイクを使用するとき」をご覧ください。

■受信機適合設定のしかた

- ①本機の電源スイッチを「切」にして、電池ケースのふたをはずす。(7ページの周波数の設定参照)
- ②グループ設定スイッチをドライバー(付属)で「t」または「v」のいずれかに合わせる。(図2、表2参照)
- ③チャンネル設定スイッチをドライバー(付属)で使用するマイクに合わせて「SE1」または「SE2」に設定します。使用されるマイクが本機のマイクの場合は「SE2」に、別売のヘッドセットマイクHM-1000の場合は「SE1」です。「SW」には設定できません。(前項の「別売マイクを使用するとき」参照)
- ④本機の電源スイッチを0.5秒以上「入」にした後、再び「切」にしますと設定完了です。
- ⑤グループ設定スイッチを元のグループ位置に設定し、電池ケースのふたを閉める。
- ⑥本機の電源スイッチを「入」にし、受信機に適合するかテストをおこなう。
 - ・受信機に適合しないときは、販売店などにご相談ください。

◎注意・グループ・チャンネル設定スイッチは必ず元の位置(1~7)に戻すか、正しく設定してください。

多チャンネル運用について

■15波同時使用対応機種

●15波同時使用には、送信機・受信機・アンテナ・分配器がそれぞれ下記の15波同時使用対応機種である必要があります。

◎本機使用時は送信出力を「2mW」に設定してください。

●対応機種（2019年3月現在のものです）

- ・ワイヤレス送信機……WM-8030A, WM-8100A, WM-8130A, WM-8131, WM-8240, WM-8330A, WM-8400
- ・ワイヤレス受信機……WTD-8121, 8141
- ・分配器……………DWD-8240
- ・ワイヤレスアンテナ…AA-800シリーズ

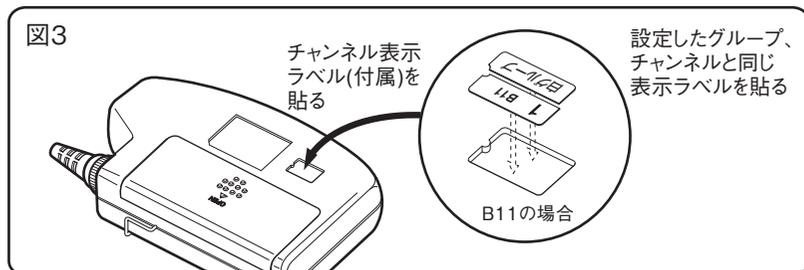
表3

15波用白グループ対比表		
チャンネル	GR/CH	周波数(MHz)
1	B11	806.125
2	B12	806.375
3	B31	806.625
4	B32	806.875
5	B13	807.125
6	B33	807.375
7	B51	807.625
8	B24	807.875
9	B52	808.125
10	B53	808.375
11	B35	808.625
12	B26	808.875
13	B44	809.125
14	B45	809.375
15	B55	809.625

15波用青グループ対比表		
チャンネル	GR/CH	周波数(MHz)
1	B21	806.250
2	B22	806.500
3	B41	806.750
4	B23	807.000
5	B61	807.250
6	B42	807.500
7	B14	807.750
8	B43	808.000
9	B34	808.250
10	B25	808.500
11	B54	808.750
12	B15	809.000
13	B36	809.250
14	B16	809.500
15	B46	809.750

■チャンネルの設定

- 15波同時使用の組み合わせは、グループ1～6の中から選定された周波数で構成されています。(表3参照)
- 同時に使用するマイクは、同グループ(表3の白または青)・異チャンネルにしてください。ただし、隣接した部屋でほかのグループのマイクは使えません。
- チャンネル表示ラベルを貼るとチャンネルを区別しやすくなります。(図3参照)

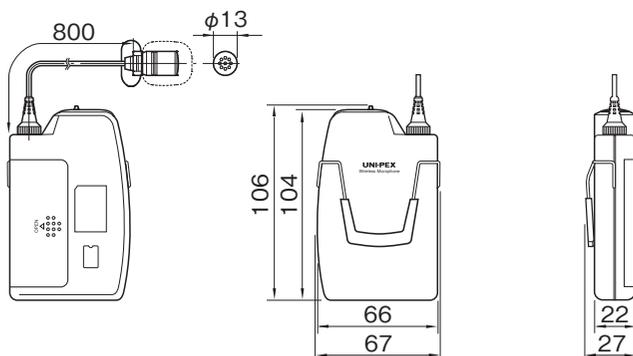


定格

電波形式	F3E
送信周波数	806.125MHz~809.750MHz (125kHz間隔、30波)
発振方式	水晶制御PLLシンセサイザ方式
変調方式	リアクタンス変調方式
空中線電力	2 mW/6 mW 切換式
通達距離	約60m (2mW)、約100m (6mW) [電波を遮蔽しない環境条件にて]
アンテナ	内蔵アンテナ
変調感度	±5 kHzFM (SENS 1:90 dB SPL SENS 2:80 dB SPL 1kHzにて)
使用マイク	単一指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
周波数特性	100 Hz~10 kHz (1 kHz基準 50 μ s エンファシス)
最大入力音圧	116 dB SPL
入力等価雑音	40 dB SPL以下 (Aカーブ)
使用電池	単3形乾電池または単3形ニッケル・水素蓄電池 × 1
消費電流	45 mA (2mW)、65 mA (6mW)
電池寿命	アルカリ乾電池 [LR6] 使用時:約30時間 (6mW)、約36時間 (2mW) ニッケル・水素蓄電池 [HR6、定格容量1900mAh] 使用時: 約25時間 (6mW)、約30時間 (2mW)
使用温度範囲	0°C~+40°C
寸法	本体:66(幅)×104(長さ)×22(厚さ)mm (突起部含まず) マイク部:φ13(径)×30.0(長さ)mm マイク部と本体間線長:約800mm
質量	約120 g (電池含む)
外装	ストーンシルバー色樹脂 (マンセルN4.5近似色)
付属品	取扱説明書 (保証書付) 1、チャンネル設定用ドライバー 1、チャンネル表示ラベル 1、 単3形乾電池 (テスト用※) 1、マイククリップ 1、ウインドスクリーン (風防) 1

*付属の乾電池はテスト用ですので、早めに新品の乾電池または充電済みのニッケル・水素蓄電池に交換することをお勧めします。

外観寸法図 (単位: mm)



サポートのご案内

■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。

販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。

- ①品名 ②品番 ③お買い上げ日 ④故障の状況(できるだけ具体的にお願いします)

■ 販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

営業所情報はホームページもしくは2次元コードにアクセスしてください。
<http://www.unipex.co.jp>



■ その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。

UNI-PEX お客様ご相談センター

0120-56-5245 通話料無料

受付時間/9:00~17:00(土・日・祝日除く)

携帯電話からのご利用は、

072-855-3334(通話料がかかります)

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。

ワイヤレスマイク WM-8100A 保証書

製造番号	
保証期間	お買い上げ日 年 月 日より 電子回路部1ヶ年、ケース(外装部)6ヶ月
お客様	お名前 ご住所 〒 電話() -
販売店	店名・住所 電話() - 印

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 **日本電音株式会社**

発売元 **ユニペックス株式会社**

〒573-1132 大阪府枚方市招提田近3-6 TEL.(072)855-3334(代)

【保証規定】

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

(This warranty is valid only in Japan)

無料修理保証の範囲

- ①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
- ②修理の際は必ず保証書の提示があること。
- ③当保証書の所定項目に必要事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

無料修理保証の免責範囲

(次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。)

- ①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
- ②不当な修理改造による故障、損傷。
- ③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
- ④お買い上げ後の落下、傷など、お取り扱い上起因するもの。
- ⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
- ⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
- ⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。